



日本テレビにおける 解説放送の現状

2006年11月16日(木)

日本テレビ放送網株式会社

解説放送の歴史

◎1983年 「火曜サスペンス劇場」で解説放送がスタート

「ラジオドラマ」をコンセプトに、サスペンスドラマの展開に不可欠な、音声を伴わない仕草、表情、状況などに解説をつけた。

※解説放送とは・・・視覚障害者の方に向け、テレビの副音声を使って本編の音声に加え「ト書き」的な内容の解説をつけて放送すること

＜これまでの主な作品＞

- ・24時間テレビドラマ（年1回）
- ・カネボウヒューマンズスペシャル（年1回）
- ・水曜グランドロマン（2時間・単発ドラマ枠）
- ・「仔犬のワルツ」（2004年4月～6月） ※連続ドラマとしては唯一

解説放送の現状① (2005年度)

2005年度
解説放送を実施した番組

番組数

35タイトル

総放送時間

67時間33分

<解説放送を実施した主なタイトル>

◎火曜サスペンス劇場

4月19日放送 「京都金沢雪女殺人事件」

5月24日放送 「警視庁鑑識課」

6月放送 「6月の花嫁2005」全4タイトル

9月20日放送 「刑事 鬼貫八郎」

他、全24タイトル

◎DRAMA COMPLEX

11月22日放送 「ふたつの祖国～東京・ソウル愛と哀しみの絆」

1月10日放送 「伝説の秋田犬 ハチ」

2月21日放送 「松本清張スペシャル 指」

他、全8タイトル

◎24時間テレビスペシャルドラマ「小さな運転士最後の夢」(8月27日放送・1月8日再放送)

◎冬のドラマスペシャル「隅田川の花嫁慕情」(12月18日放送)

解説放送の現状② (2006年度)

2006年4月～11月16日現在
解説放送を実施した番組

番組数

42タイトル

総放送時間

86時間00分

<解説放送を実施した主なタイトル>

◎DRAMA COMPLEX

4月2日放送 「たったひとつのたからもの」
8月22日放送 終戦記念特別ドラマ「最後のナイチンゲール」
他、全27タイトル

◎火曜ドラマゴールド
(10/31～タイトル変更)

11月7日放送 「検事霞夕子SP」
他、全3タイトル

◎ドラゴン☆サンデー(再放送枠)

7月16日放送 「戦国自衛隊・関ヶ原の戦い」
他、全11タイトル

◎24時間テレビスペシャルドラマ 「ユウキ」(8月26日放送)

※2006年度上期は、ドラマ再放送枠があり、解説放送の放送時間が増加。

解説放送の要素（ドラマの場合）

1

行動説明

- ・人物の行動やものの動き、表情、複数の人物の行動
- ・思考の説明 例>「～を考えている」

2

場面説明

- ・場面が変わったときにその場面の状況を説明する

3

人物説明

- ・その人がどういう人物であるか 例>「～の妻である。」

4

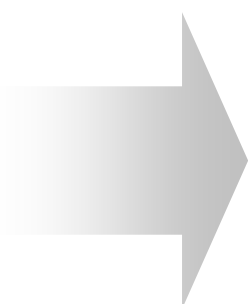
文字を読む

- ・画面の中の文字(手紙など)

5

人物描写

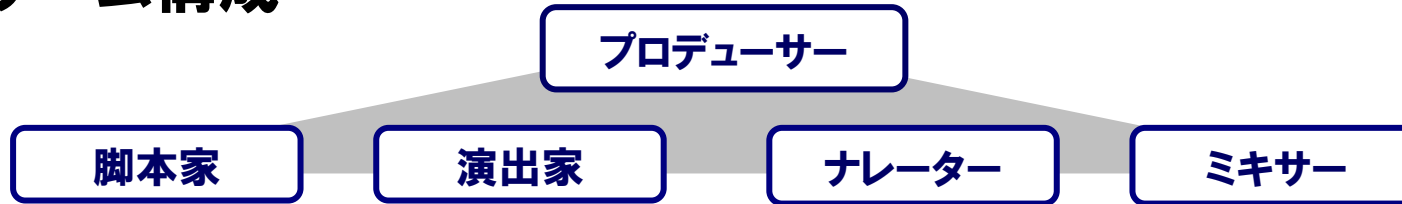
- ・人物を主観で描写しているもの
例>「A子を見つめるB男。(A子の顔がアップに)憂いに満ちた横顔が美しい。」
←B男の主観が入っている。



スタート時は上記の5要素全てを入れようとしていたが、状況によって情報の取捨選択をしていく必要があることに気がついた。視覚障害者の方を対象に解説放送に関する調査を行ったり、試行錯誤を繰り返す中で独自のノウハウを確立し、現在に至っている。
ただし、視覚障害者の方の意見を吸い上げても、障害の度合い、あるいは感性によって求めるものが違うこともあり、様々な議論を経ても「過不足ない」完璧なものを制作するのは難しい状況にある。

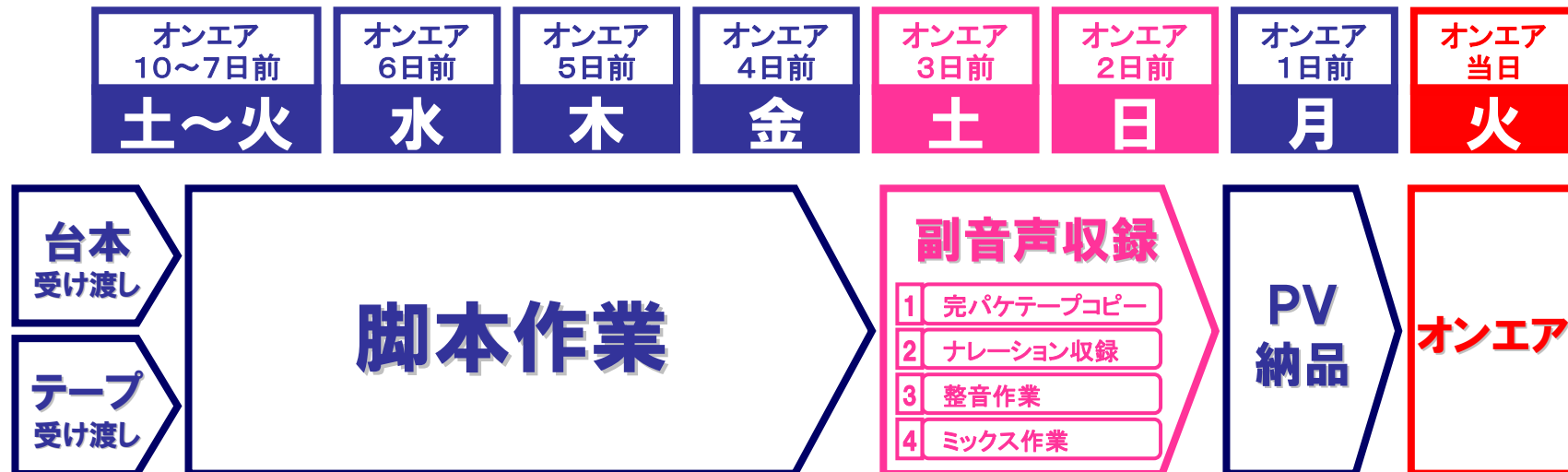
制作の流れ (火曜ドラマゴールドの場合)

◎制作チーム構成



◎制作の流れ

理想は2週間だが...



制作開始からオンエアまで**10日~最短で7日間**

解説放送の課題

① 制作時間

番組本体＋解説放送の制作時間が必要となる
「もうひとつの番組」を作るような作業
技術革新による時間の短縮には限界がある

② 番組ジャンル

解説放送になじむ番組とは？
現状は単発ドラマのみに実施
他のジャンルはこれからの検討課題

③ 人材育成

経験とノウハウをもつ「専門家」が必要である
人材育成には時間がかかり、ベテランに頼らざるを得ない状況